

※写真上、化石展示館の内部。左下、福地自然館全景(うしろの山の斜面に見学コースがある)

化石展示館をセンターとして、民俗資料館・ヒエツキ小屋・無料休憩場・売店、それに一番の日玉ともいうべき裏山の斜面の杉林を切り開いてつくられた化石や地質の見学コース、これらを総称して「福地自然館」と呼ぶ。

古生代デボン紀の化石産地として有名なこの地、この人類のかけがえのない天然自然の宝物を守ろうと立ちあがった旅館経営者山腰悟氏の

館・園紹介 № 17

ひだ福地自然館

〒506-13 吉城郡上宝村福地
TEL <05787>(呼) 138

見学コースで自然のままを!!

まわりには、見学コースの山を無償で貸与する友人・研究や案内をかってる京都大学生など、共鳴・協力者が多い。

室内に展示した化石を見せるだけでなく、一周450mの見学コースの所々に露出する地層やその中の化石を、自然の状態で産状などを学習させる野外実物展示はすばらしい。

それに熱のこもった山腰氏自身の説明は、化石への限りない愛情と、地球の歴史をかけめぐる情熱的なロマンに満ちあふれ、ここで見られるどんな自然物にも勝る博物館的存在価値がある。展示館内には、天然記念物指定地一の谷や、見学コースから出る床状サンゴ、四射サンゴ、層孔虫、腕足類、三葉虫、直角石(80cm)等250点が展示されている。(編集部)

民具・粃摺臼の変遷

奥美濃郷土館長 武 藤 隆 一

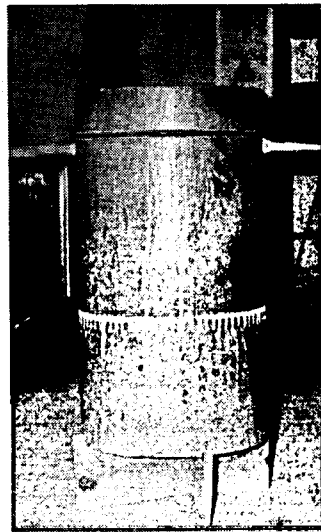
こじり臼は別名いじり臼とも呼び粃摺臼であ
って、材質の堅い木で作ると玄米が砕けてしま
うので、山桐等のやわらかい木で作られている。
古くは立臼たちを使っていたが、江戸時代には座っ



(江戸時代、繩にて行なり)

て二人が、両側から交互に繩をひいて、上臼を廻転させる摺臼を使い、明治時代になると上部に把手をつけ、二人が向いあって両手で廻転させながら粃摺を行なう方法をとった。此の二型の摺臼をこじり臼と呼びます。上記の型式の臼は、上臼を半廻転させ粃摺作業をすることは同じであるが、変遷過程の第一段階としては、座の姿勢から把手をつけ立たちの姿勢で作業することに依り能率の向上を図っており、第二段階になりますと粃摺面を多くすることにより、一層の効率を高める工夫がなされております。明治から把手をつけたこじり臼の、新旧判別は外見上からは困難ですが、粃摺面を観察することにより判定出来ます。こじり臼の構造は大木を輪切りにして、上臼と下臼を作ります。下臼の上部を円椎形にけずり、此の個所に70～90条の切り込みを刻み、中心部に徑等で作った長き心樫を埋め込み、その上に上臼をかぶせております。江戸時代に使用したこじり臼並びに把手をつけたこじり臼も、初めは円椎形粃摺面の下部のみで粃摺が出来る構造になっており、後になりますと全体の個所で粃摺が出来る構造に変わりました。

た。極限に達したこじり臼も、其の後は粃摺面を平面にした全廻転方式の臼となり、形も大きくなりました。この段階の臼はもはやこじり臼と呼ばなくなり「引廻しひきまわ」と呼ぶようになりました。材質もしなのき、檜も使われるようになり、「引廻し」には一本の大木を輪切りにして作られたもの、数個の木片を円形に組合せ竹のタガをはめた臼の二種類があります。木片を組合せて作った臼は、木の心部を外側になる様に配列して、竹のタガをはめております。このことは、木のやわらかい部分を内側におくことにより、玄米の砕けることを防止することと、木のひ割れを防止する方法として考え作られたものであります。以上述べた各種の摺臼は、粃摺面の磨滅が甚だしく、しばしば目を立てなければならぬ欠点があり、次に登場してくる臼が



(明治時代、下部の足は後から付けたものである)

土臼どであります。檜の木片と木片との間に缺った土をつめこんで、粃摺面を作った全廻転方法の摺臼であります。土臼に到って摺臼の時代も終焉を告げました。土の上に育てられた大木を伐採して作られたこじり臼幾変遷を経て、土臼に到り、土が埋められて行く時、摺臼はもはや其の用なき過去の民具として忘れ去られて行きます。

岐阜県の社会教育と博物館

—— 現状から将来構想へ ——

(編集部)

県教委では「社会と教育」第128 (社会教育行政の手引き1) P.106 なる冊子をこの4月発行した。この中で博物館関係は P.10 に、

わずか1ページたらずしか扱われていないが、心して読むべきである。

岐阜県内博物館施設の状況

(昭和47年12月現在)

種別	歴史	民俗	美術	自然科学	動植物園	岩石 鉱物	計
博物館	—	—	—	1	—	—	1
博物館相当施設	—	3	—	—	—	—	3
博物館類似施設	26	21	15	12	9	6	90
計	26	24	15	13	9	6	94

〔問題点〕 社会教育というと、青年学級、婦人学級、成人学校とか、公民館、青年の家、婦人会館などがすぐ頭に浮かび、自己教育をめざす社会教育の場としては、図書館よりも高次で最適な博物館が、不当に軽視され認識不足である。「博物館」は、専門的機能をもった公教育機関、近代文明社会に欠くことのできない道具であり、友だちである。本県においては、埋蔵文化財の発掘による考古学資料、民俗資料等、その収蔵資料の多いことは全国的にも高いレベルである。人文分野に限らず自然についても、日本を代表する緑の王国である。

こうした資料が、市町村教委事務局、公民館、学校等の展示棚に収蔵されたまま放置されていたり、県民・住民に充分活用されているとはいえない現状である。ところによっては、施設を作り、資料を保管・展示しているが、その目的は、「博物館施設」というよりは、資料館、保存館であつたり、観光施設として経営されて

いたりする。

〔今後の方向〕 • 博物館学の理念を広く啓きるとともに、社会教育の中で、博物館が発揮するその役割・機能の大きさを再認識して、各市町村の社会教育主事等に博物館教育の研修を推進する。

• 県下各地に点在している約90館の類似施設等を、社会教育機関として方向づけるために、思いきった経費援助等の措置をとるなど、社会教育行政の英断・諸施策推進が望まれる。

• 他の社会教育機関(公民館・図書館等)との連携を考え、地域住民の学習要求に答えるべく、地域諸施設の努力と研修が望まれる。

• 専門職員である学芸員の養成を推進するとともに、学芸員資格が取得しやすいような方策を考慮すべきである。

• 博物館の民衆化の第一歩として教育の専門家たる学校教師の研修内容に、「博物館学」をとり入れ、学校教育からの積極的な利用活用を促す。

東南アジアの昆虫展へどうぞ!

名和昆虫博物館では、中日新聞社の後援を得て、マレー半島を中心に、台湾、インド、ボルネオ、ニューギニア、オーストラリアなども広く含んで約一千点、その他故名和正男館長の遺品、晩年採集を続けた石徹白の昆虫も展示して、上記特別展を開催中。4月15日～8月31日。

染付・銅板磁器展へどうぞ!

岐阜県陶磁器陳列館(多治見市陶元町)では、明治の頃から大正にかけて、美濃でおびただしくつくられ、各地の家庭に送られた染付・銅板磁器、これらのやきものを故里帰したような想いで暖かく迎え、その労を慰めようと考え、上記特別展を計画。愛知県半田市、加古氏の蒐集品 157 点、それに県内蒐集家のもの 100 点余を展示。5月10日→7月30日まで、月曜休館日を除いて、いつでもお出かけを。

青木允夫氏学芸員に

くすり資料館(羽島郡川島町)の青木館長は、この三月めでたく学芸員の資格を授与されました。「学芸員の資格のある者を館長にせよ」といわれている博物館界として、同慶にたえません。今後の博物館人としてのご活躍を祈ります。

野島甲冑美術館開館

高山市石浦町 503-6に 4月1日オープン。館長野島喜好氏。年中無休。おとな 150 円。こども 70 円。床面積 200㎡、甲冑・武具、美術工芸品・民芸品等約 500 点、TEL 0577-32-5746

飛驒民俗考古館開館

高山市上三之町 8 2。館長坂本重次郎氏。昨

年 9 月オープン。化石・考古資料・武具・飛驒後風土記原本、焼物等 1500 点。家そのものも、昔の御殿医住居で文化財的価値がある。年中無休。おとな 100 円、こども 50 円。

TEL 0577-32-1980

事務局だより

会費値上げのお願い

過日の総会にて、年会費の値上げが下記のように決定されました。諸物価値上りはさておき、機関誌の充実、毎月の博物館学セミナーの実施、それにセミナー集の出版……と、当協会の事業活動も一段と飛躍しますので、ご了承下さい。

※公立 2,500 円 私立 2,000 円

個人 1,000 円 (昭和 48 年度分より)

この会員証をしめした人には…

日本博物館協会の会員で、裏に協会印がおりてあり、色は赤で印刷。県下各館園におかれましては、無料見学等に特別のご便宜をお計り下さい。



編集後記

◎この機関誌は、横の結びつき、情報交換の場としたいもの、どんな小さなニュースでもご意見でも、どんどんお寄せ下さい。

◎川喜田二郎著「日本文化探検」講談社文庫を読みました。博物館人の思想的背景となる論説多々、ご一読あれ。(小野木学芸員)